

# 動物に対する理学療法 アンケート調査結果 単純集計



公益社団法人

日本理学療法士協会

Japanese Physical Therapy Association

2024年2月28日

職能推進課

# アンケート内容

## 【目的】

動物に対する理学療法領域における、今後の職能事業の推進に向けた現状調査をおこなう。

## 【対象者】

2023年11月2日時点において動物に対する理学療法部会に登録をしている本会会員在会者3,798名

【発信日】 2023年11月27日（月）

【回収日】 2023年12月15日（金）

【方 法】 Questant (<https://questant.jp/>)を用いたWebアンケート

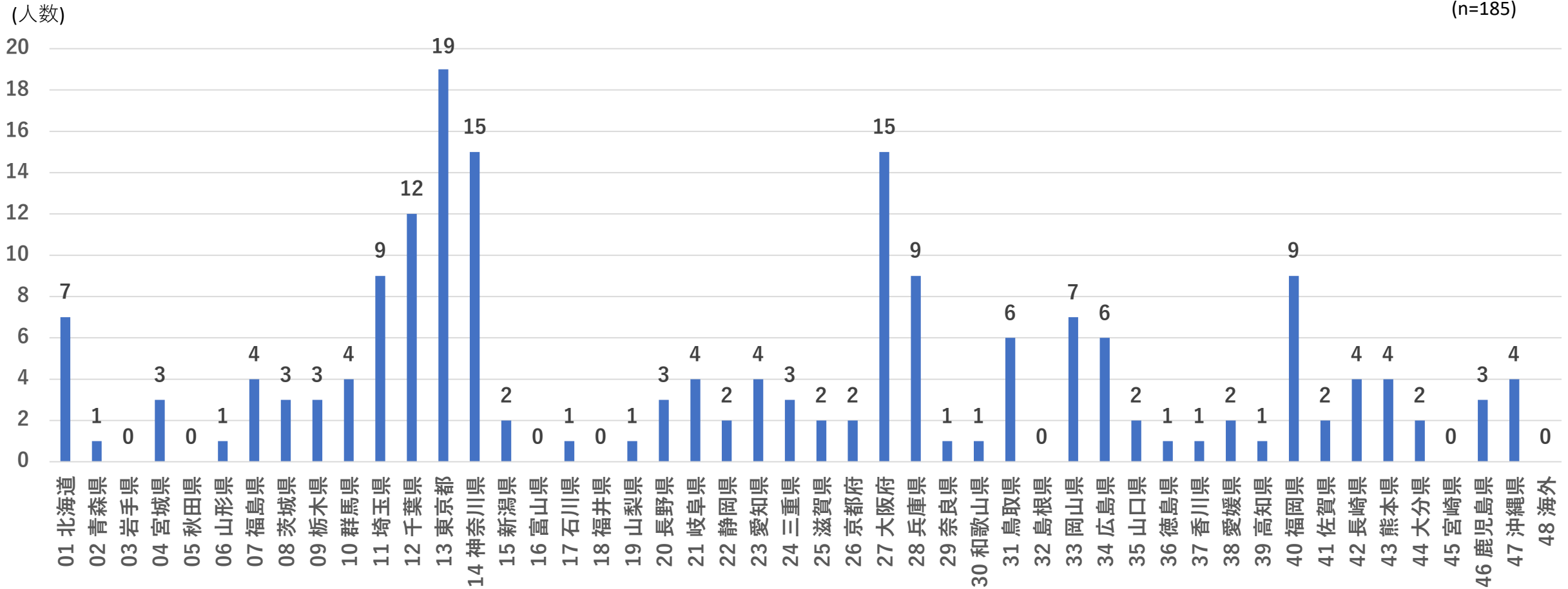
【回答者数】 185名（回収率：4.9%）

【設問領域】 6領域（保有資格・学術活動・制度・雇用・教育・情報/ネットワーク）

# 結果

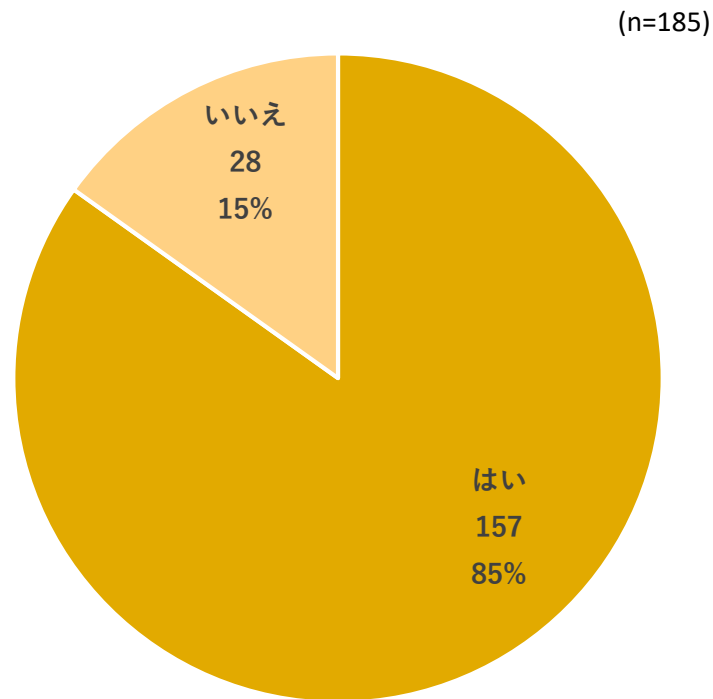
# 0. 基本情報

所属している都道府県士会

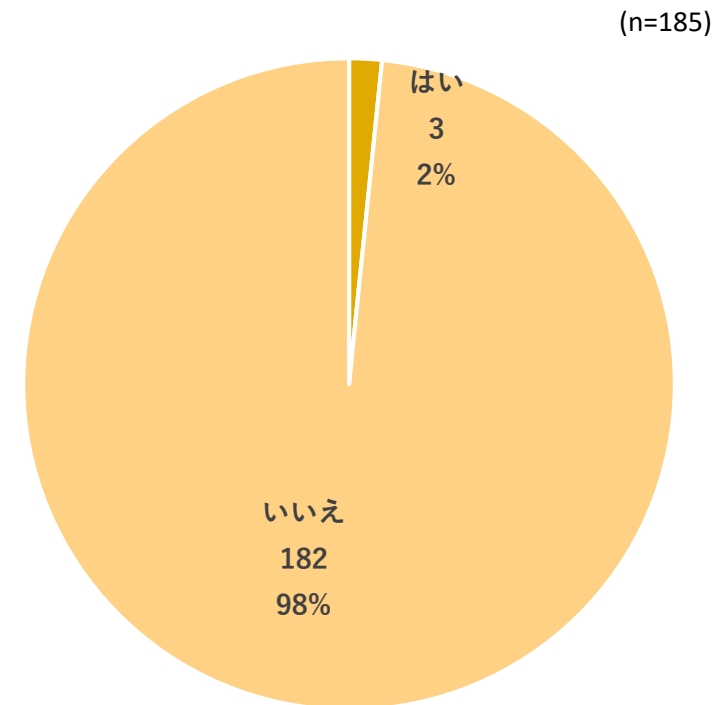


# 1. 保有資格について

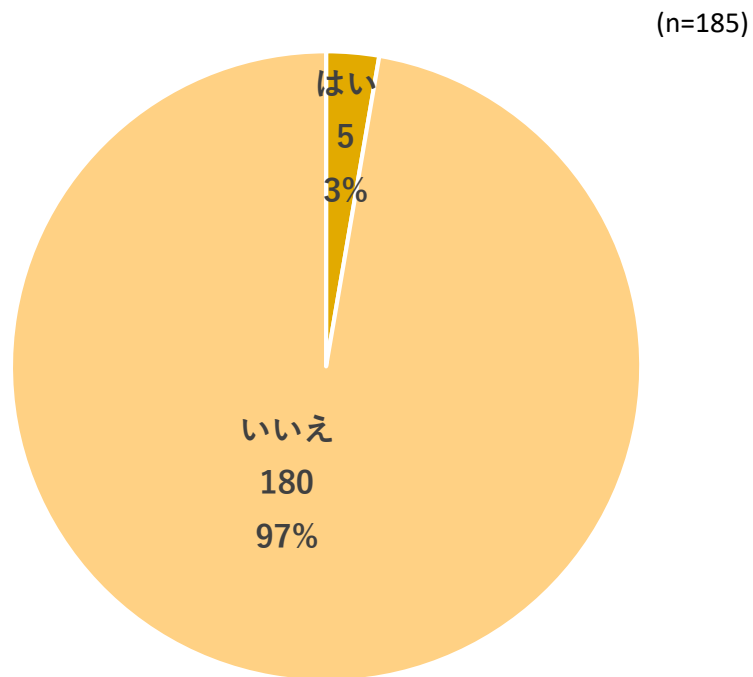
Q4.現在、登録理学療法士を持っていますか



Q5 現在、愛玩動物看護師の資格を持っていますか



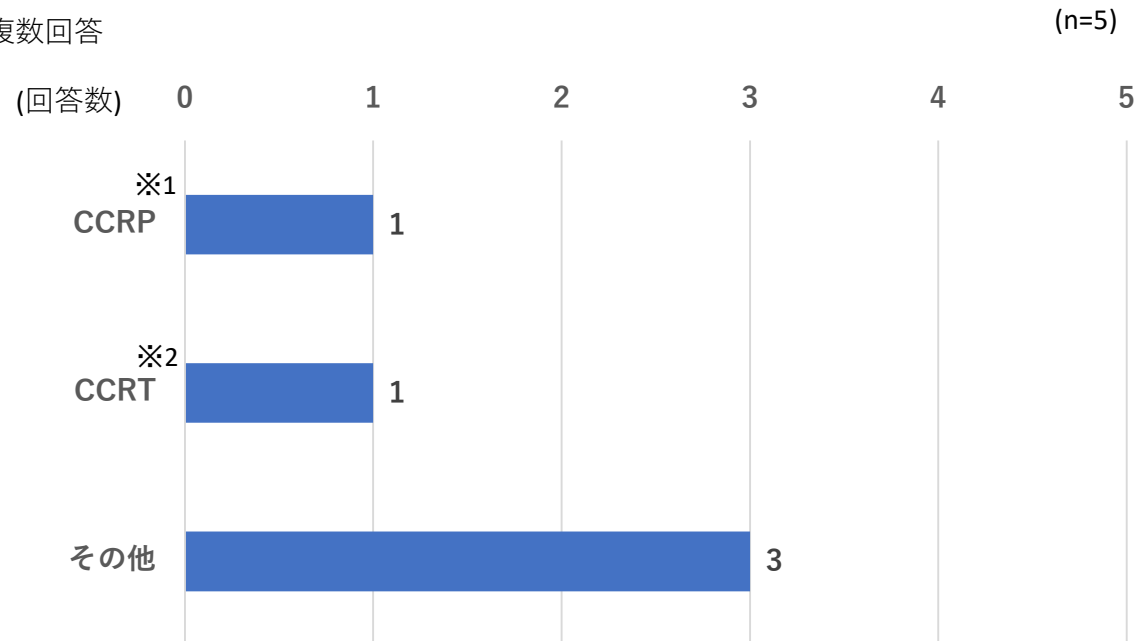
**Q6 現在、動物に対する理学療法に関わる資格を持っていますか**



Q6 に「はい」を選択

**Q7 動物に対する理学療法に関わる資格のうち、取得された資格を教えてください**

※ 複数回答

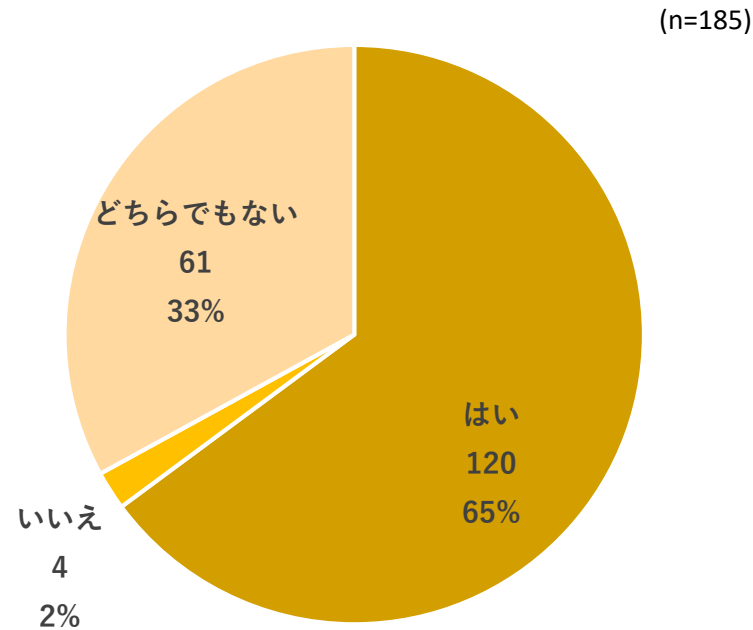


その他回答：獣医学博士・農学修士取得1名  
 動物理学リハビリ国際協会の認定資格取得1名  
 オーストラリア動物理学療法短期研修修了1名

※1 CCRP：米国テネシー大学による認定資格

※2 CCRT：米国獣医州委員会(AAVSB)による認定資格

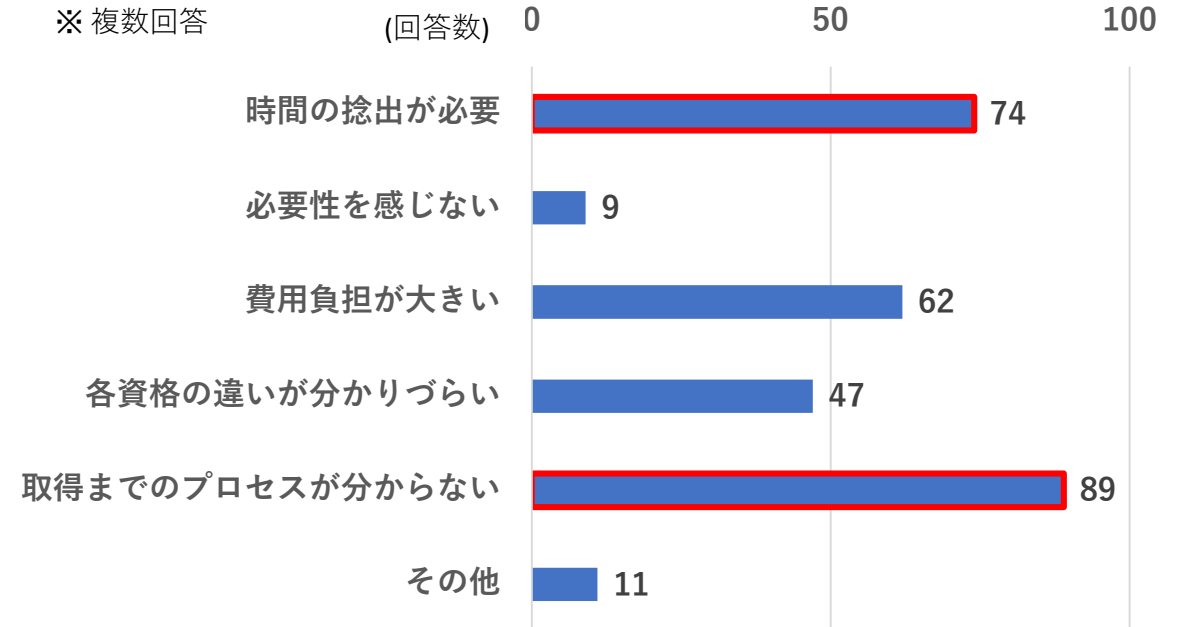
Q8 あなたは動物に対する理学療法に関わる資格取得に困難を感じますか。



Q8 に「はい」を選択

Q9 困難を感じる点をお教えてください

(n=120)

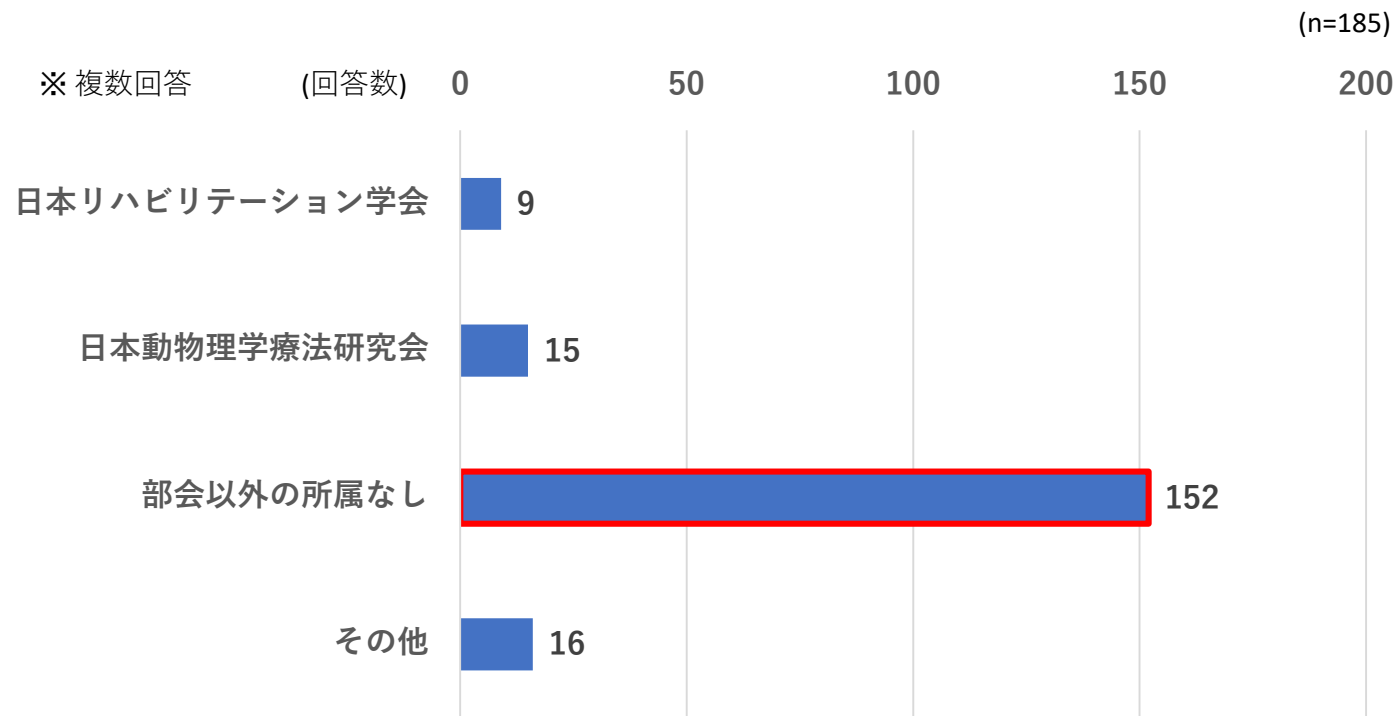


その他回答（代表例）：  
 資格取得のメリットや活躍の場等が不明。  
 仕事や収入にどの様に反映されるのかわからない  
 どのような資格があるかわからない  
 動物に対する理学療法に関わる資格そのものが明確化されていない

- 動物に対する理学療法に関わる資格取得者は少ない。
- **困難点は取得プロセスが分からないことと、時間・費用面での負担であった。**

## 2. 学術活動について

Q10 動物に対する理学療法部会以外に、動物に対する理学療法に関する学会や研究会の所属はありますか

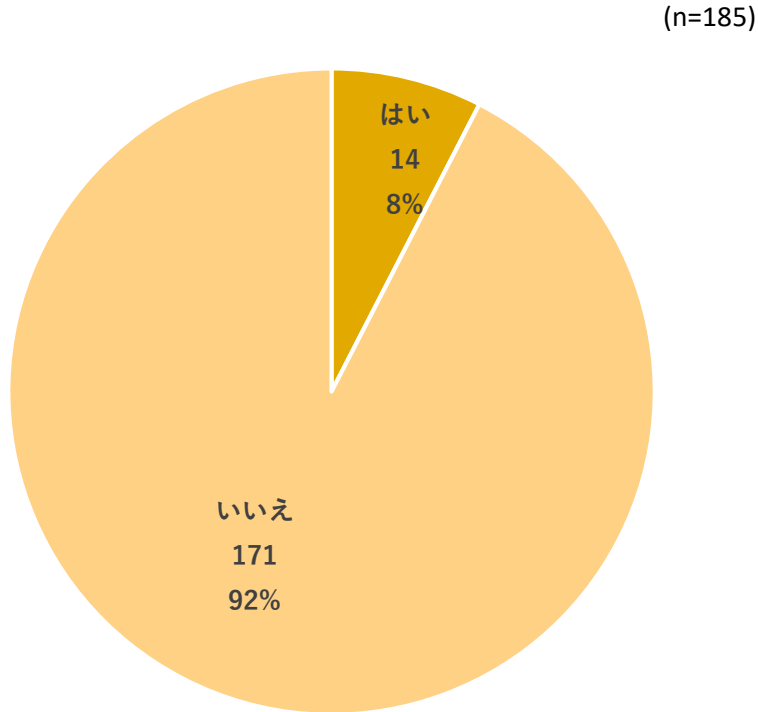


その他回答：  
なし15名、家族に獣医師あり1名、  
動物理学リハビリ国際協会1名

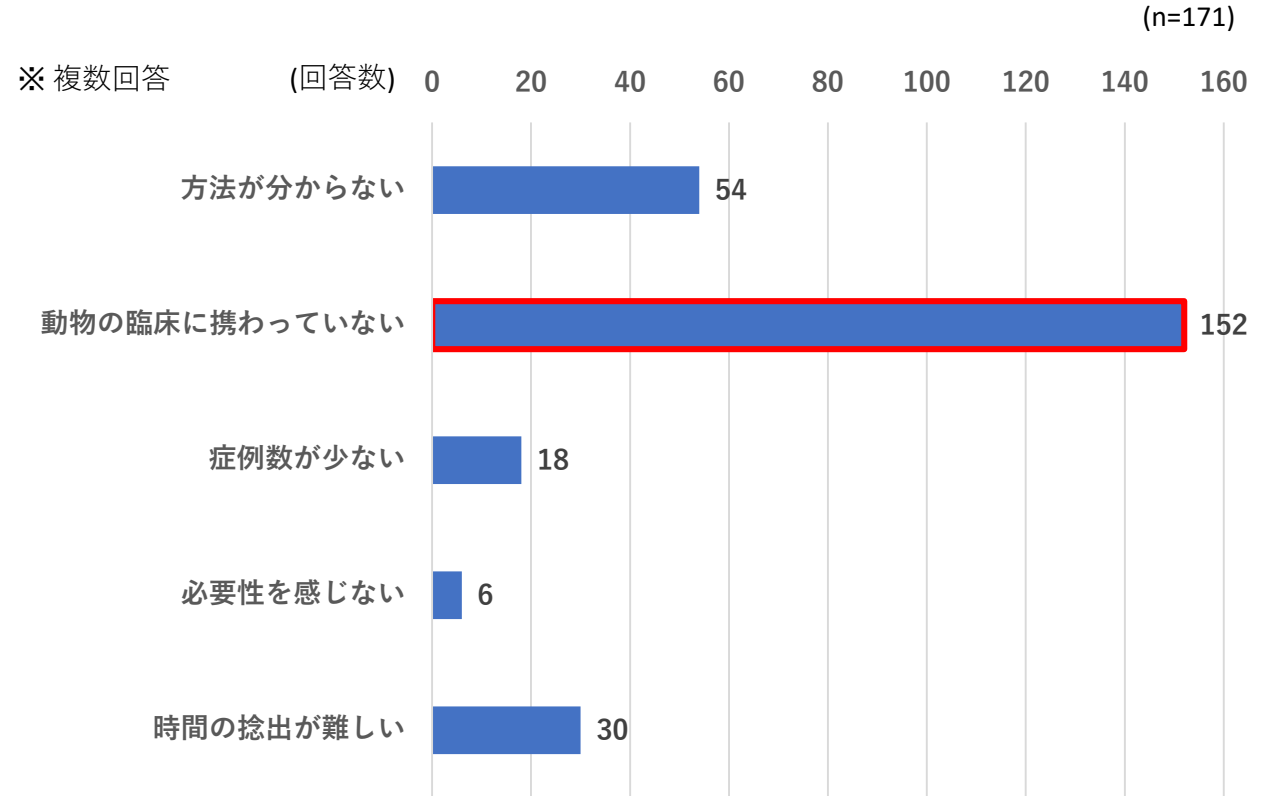


Q11 「いいえ」を選択

Q11 動物に関連する学術活動（調査研究、論文執筆、学会発表等）を行ったことがありますか



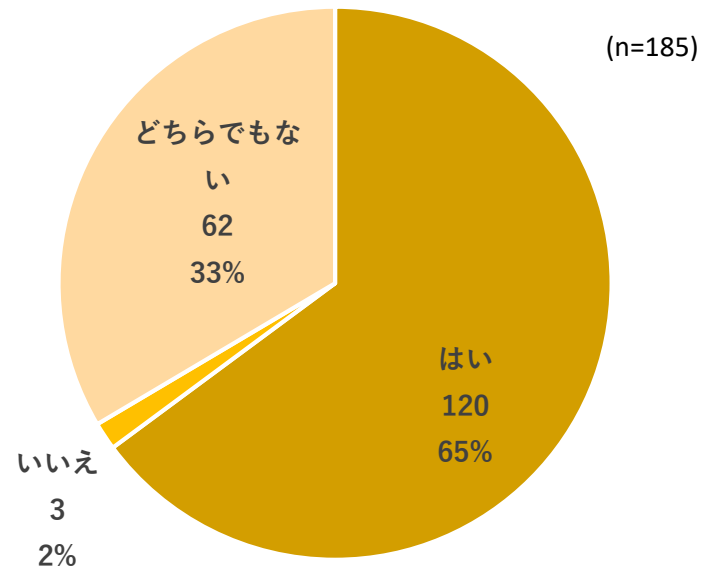
Q.12学術活動を行うにあたり何が困難要因となっていますか



- 部会以外の所属がないものがほとんどだが、動物リハビリテーションに関わる関連学会に所属する者が少数あり。
- 学術活動の実践者は少なく、困難理由として**動物の臨床に実際に携わっていないこと**が多く挙げられた。

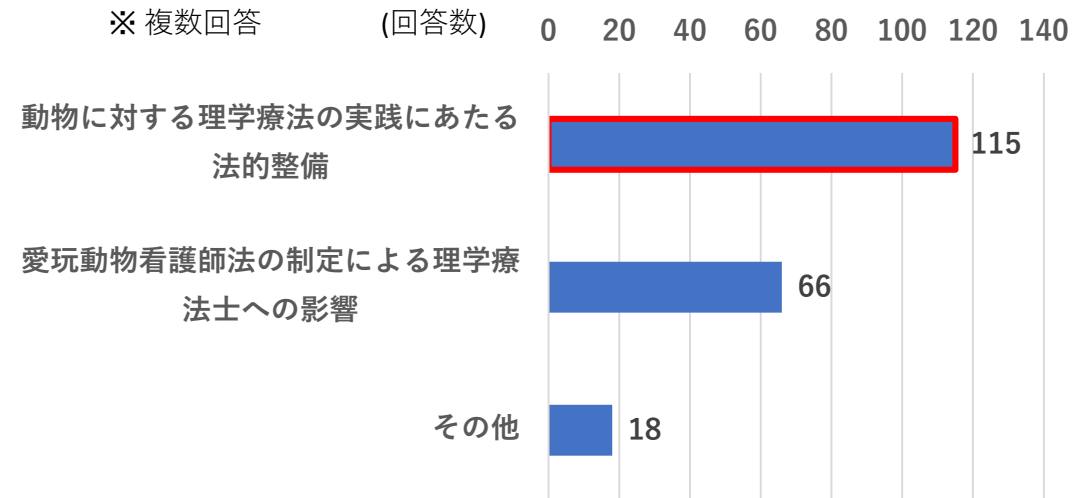
# 3.制度について

Q13 動物に対する理学療法の実践にあたり、制度的な課題や不安を感じますか



Q14 何が課題と感じますか

(n=185)



その他回答（代表例を一部抜粋）：

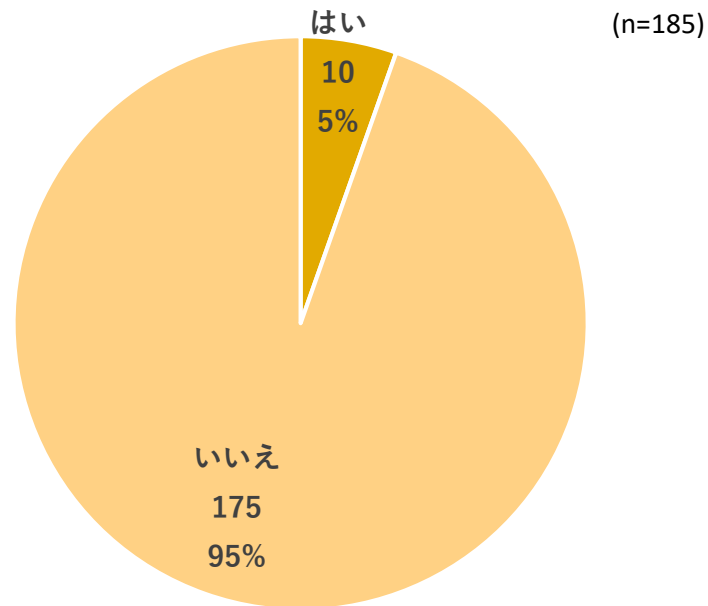
- ・情報が不足していて馴染みのない分野
- ・動物理学療法士として働ける明確な育成基準制定
- ・収入の不安定さ
- ・動物領域の知識を身に着け他職種の理解を得て獣医療に踏み込む覚悟
- ・理学療法は獣医療領域で役立つことを動物病院/飼い主さん/業界の方/行政へ周知

○ 制度的な課題や不安を感じるものが6割を超え、特に実践に当たる法的整備を課題と上げるものが多くを占めた。

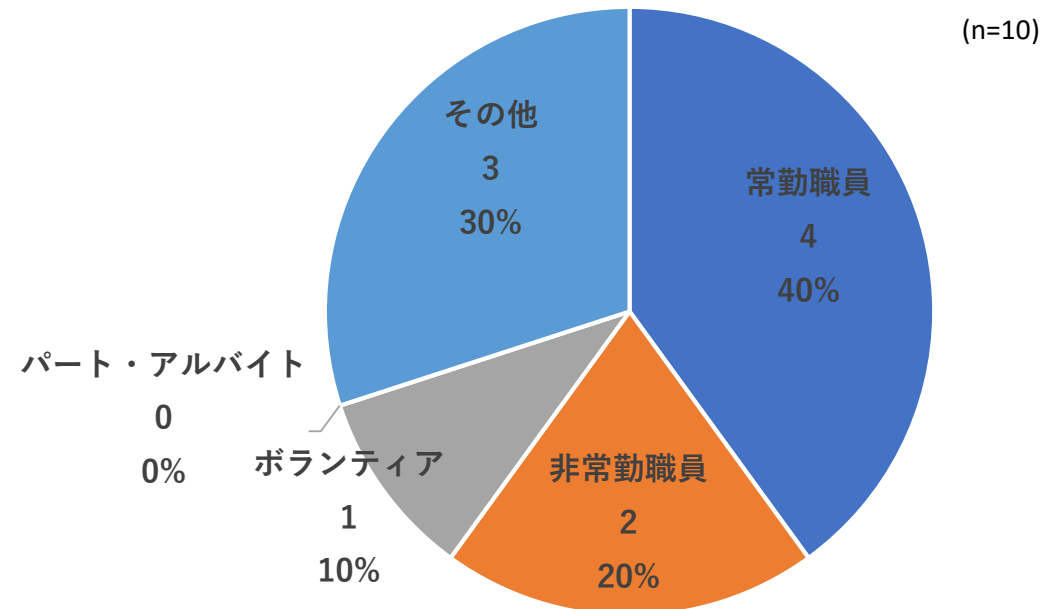
# 4. 雇用について

Q15 動物に対する理学療法の臨床に携わっていますか → 「はい」を選択

Q15 動物に対する理学療法の臨床に携わっていますか



Q16 就労形態について教えてください

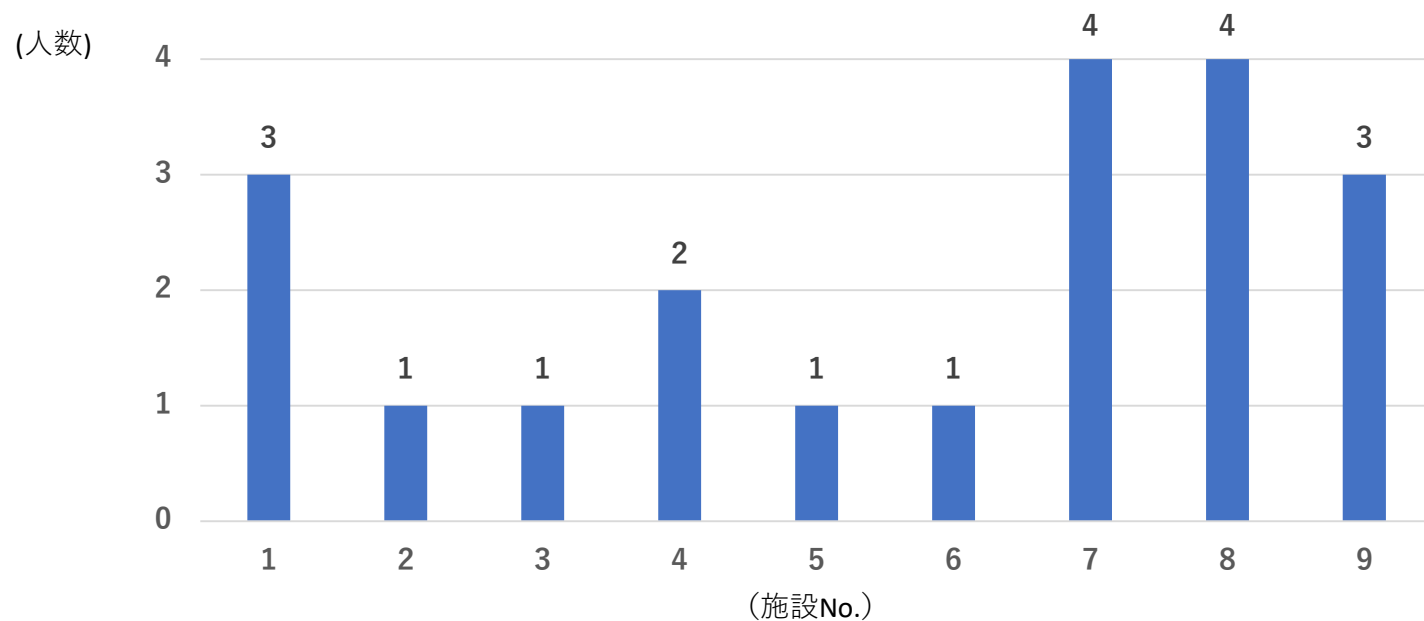


その他回答（回答数3）：  
業務提携1件、個人事業主1件、業務委託1件

Q15 動物に対する理学療法の臨床に携わっていますか → 「はい」を選択

Q17 所属先に在籍している理学療法士の人数を教えてください（ご自身を含みます）

(n=10)



|     |     |
|-----|-----|
| 合計  | 20  |
| 平均  | 2.2 |
| 中央値 | 2.0 |
| 最大値 | 4   |
| 最小値 | 1   |

Q15 動物に対する理学療法の臨床に携わっていますか → 「はい」を選択

## Q18.もしよろしければ、動物の臨床に携わるようになった動機と、携わるまでの経緯を可能な範囲で教えてください（7回答）

学生時代に動物に対する理学療法があることを知り興味を持ったことが動機。セミナーの講師の先生方に直接会い見学し、紹介してもらった病院で働いている

動機：飼い犬が後肢麻痺になり、動物に対する理学療法に興味を持った。経緯：獣医科系の大学院通学を足がかりに、人のつながりから動物病院勤務を始めることができた。

愛犬の病気をきっかけに携わるようになりました。

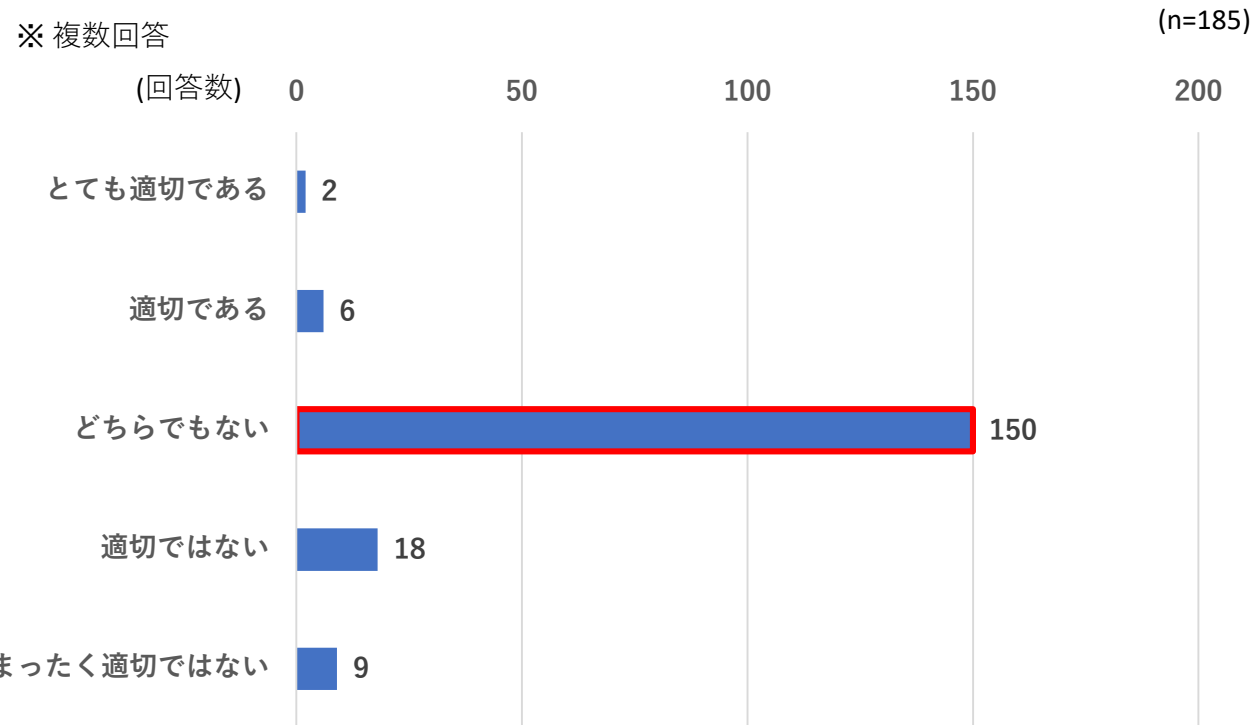
日本動物理学療法研究会の理事を行っておりました。その際に様々な獣医師の方と知り合いとなり、各種の学会やセミナーに参加することで知見を得ることができ、動物病院から動物看護師の補助として勤務する機会を得ました。また個人事業で動物取扱業として犬のリハビリを行う活動を行っており、徐々に経験を積むことが出来ました。

協会ホームページで動物に対する理学療法を知り、興味が湧きました。セミナーなど受講し、就職活動をおこないました。

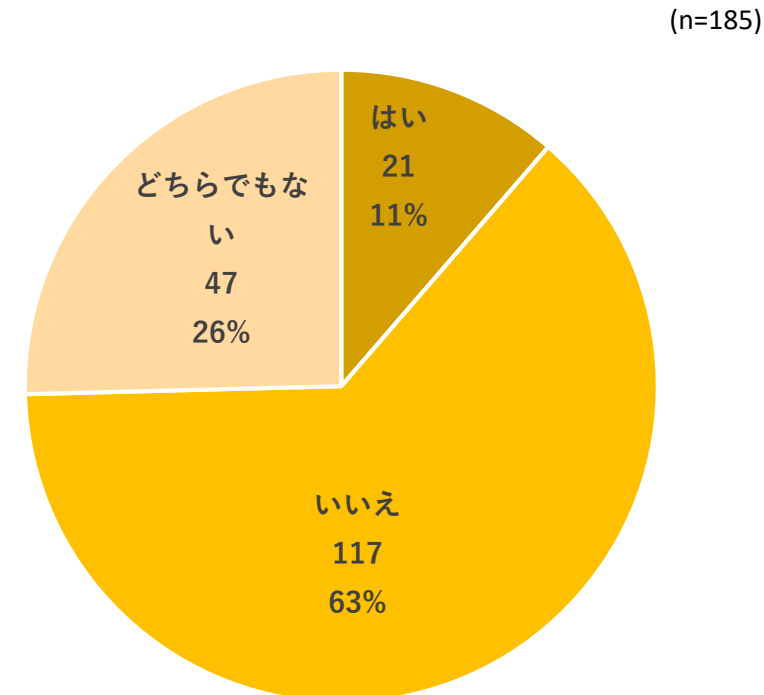
傷病野鳥の救護やリハビリに興味を持ち野生生物救護リハビリテーター養成講座の研修を受け認定を受けた。獣医師と連携し傷病野鳥のリハビリにあたっている。

飼っていた犬の難治性の術創に人の褥瘡処置を試したところ劇的に改善したのをキッカケに、理学療法も同様に効果があるのではとリサーチしたのが始まり。リハビリ見学した動物病院でCCRPを知り受講開始。CCRP臨床レポート作成を機に動物病院でアルバイトを開始。動物看護師業務とリハビリ業務を行いながら現場で獣医療を学ぶ。同時に学会やセミナーに多数参加。ドッグトレーニング勉強会でトレーニングも学ぶ。

### Q19 現在動物の臨床に関わる上での報酬は適切と感じますか



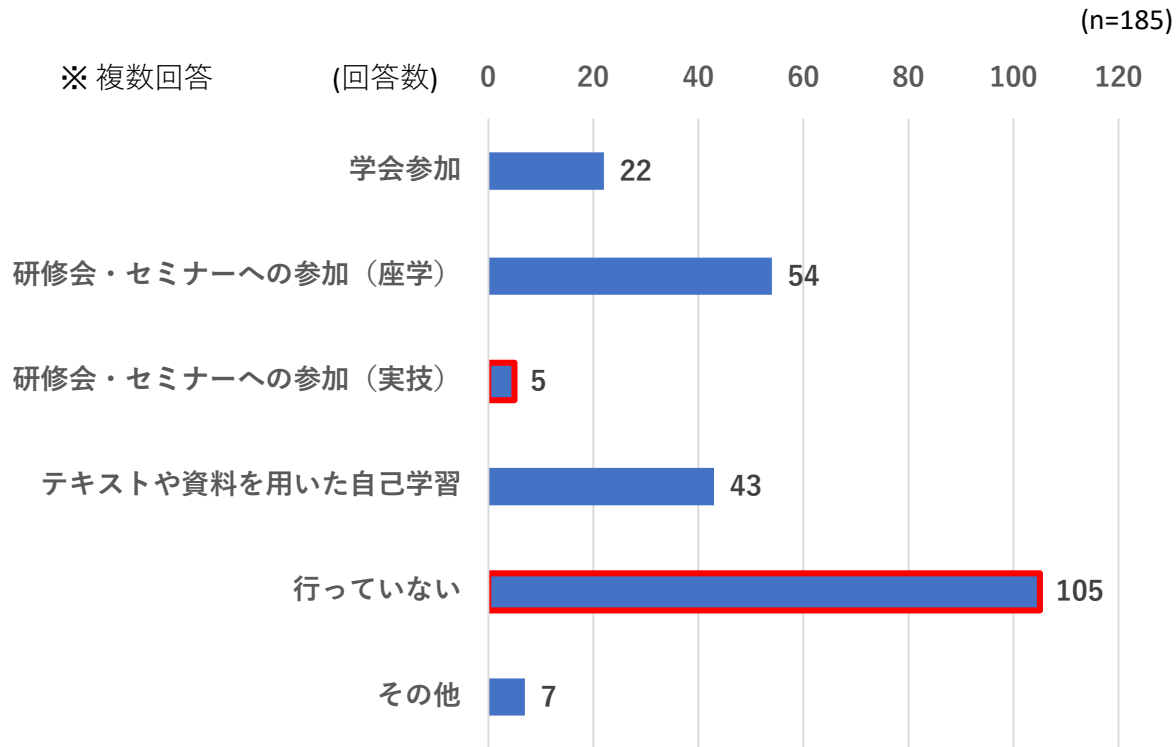
### Q20 動物に対する理学療法士の雇用の場は十分にあると感じますか



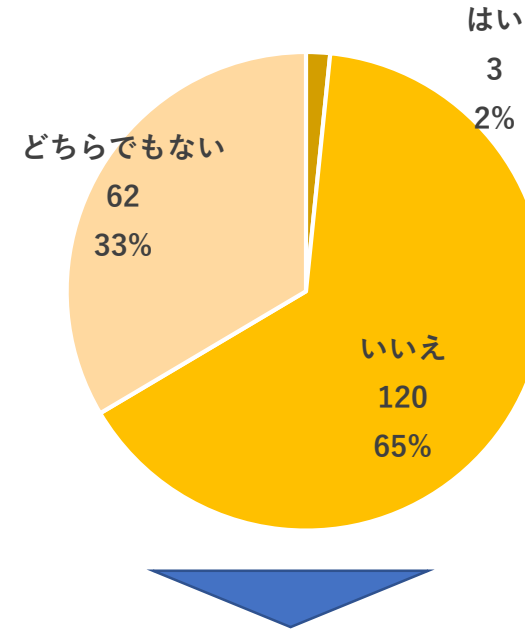
○ 動物に対する興味関心の高い部会内においても、**動物に対する理学療法士の臨床へ関与する者は少なく、雇用の場は少ない**現状である。

# 5. 教育について

Q21 動物に対する理学療法の勉強はどのように行っていますか



Q22 動物に対する理学療法の教育体制は十分だと感じますか



Q23 「いいえ」回答者のうち、回答理由(一部抜粋)

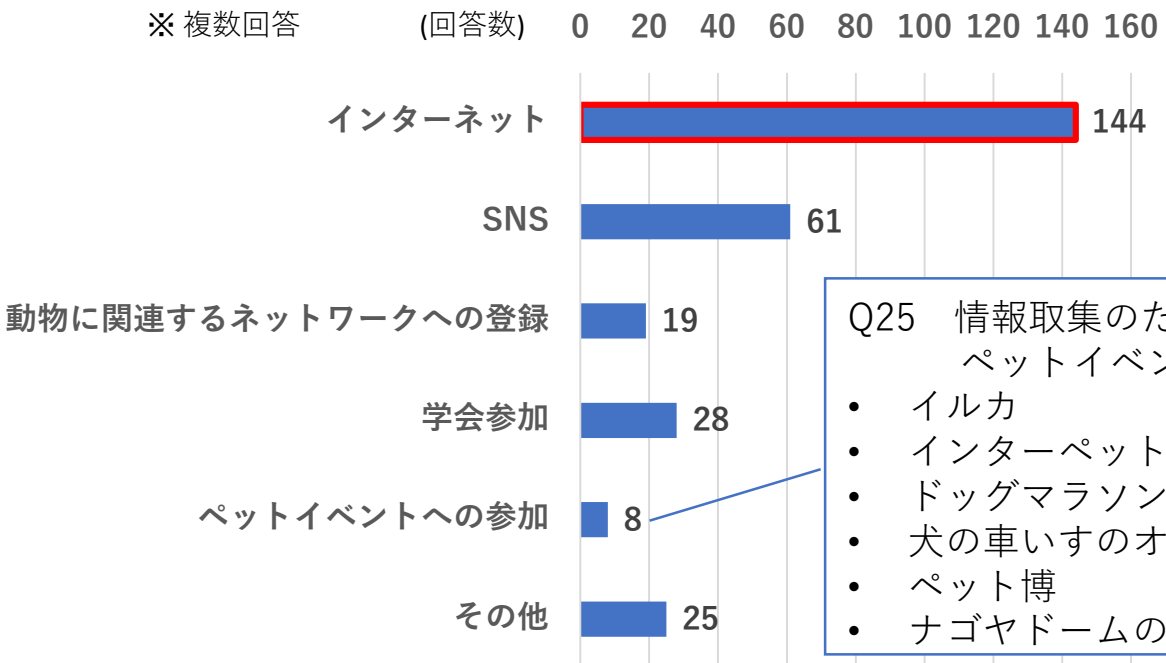
- ・ 卒前・卒後教育ともに、学習機会が非常に少ない。 自己研鑽に委ねられている状況である。学習機会の提供がもっと多くあってもよい。
- ・ 現在動物に関わっていない人のための研修などが無い

- 学習機会が非常に少なく、とくに実技研修の実践機会は乏しい。
- 教育体制は不十分に感じるものが6割を占めている。

# 6. 情報・ネットワークについて

Q24 動物に対する理学療法の情報収集はどのようにおこなわれていますか

(n=185)



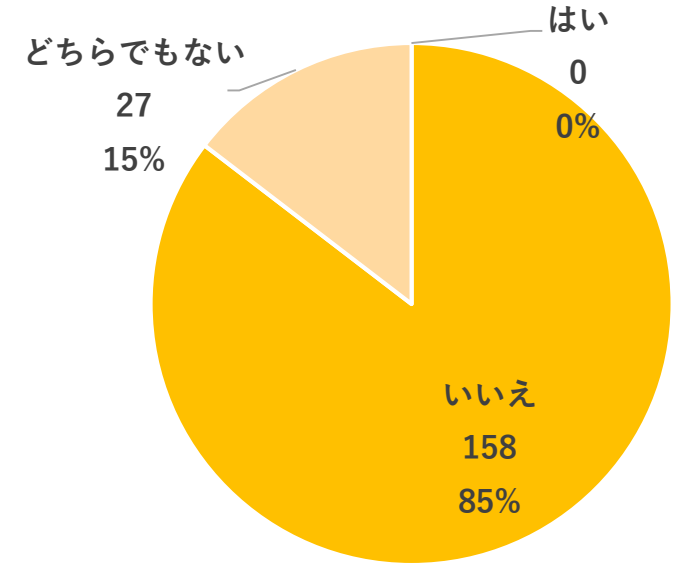
Q25 情報収集のためにご参加されたペットイベント名

- イルカ
- インターペット
- ドッグマラソン
- 犬の車いすのオフ会
- ペット博
- ナゴヤドームのイベント

その他回答 (回答数20) : 行っていない13件、研修会参加2件、PT協会のメルマガ2件、書籍・文献・雑誌2件、SNS1件

Q26 動物に対する理学療法の情報は十分に得られていると感じますか

(n=185)



○ 情報に関して十分に得られていると感じるものはおらず、**本領域に係る情報不足は明らか**である。  
○ 情報収集手段としてインターネットが主に活用されているが、ネットワークやイベントの参加等の**横の連携での情報収集を行うものは少数**であった。



# 本会へのご意見・ご要望について

## 62回答

### ※ 代表回答例を一部抜粋

- 仕事として確立する為に、**資格制度や収入面勤務先等の情報**が欲しい
- **まずは法的な整備**をお願いしたいです。安心して働ける**法的な整備**が必要かと思われます。また、獣医療業界で提携し、理学療法士を雇用する有用性の理解を促して、臨床活動の場を広げてほしいです。
- **現時点で動物に関わっていない人に対しての教育機会や現状周知**があると良い
- 新たな職域として確立していけるように**活動報告や働き方を提示**して、選択肢にできるようにしてほしい。
- 動物に必要な理学療法が提供されるよう、**身分と報酬の確立**を期待しています。
- 動物理学療法の実状（実際にどれくらい普及しているのか・伴侶動物以外の対象動物・実際の活動）やそれに携わるスタッフ（資格や活躍分野など）に関する**情報発信**を増やしていただくとありがたいと思います。
- 獣医師・動物看護師の団体と協働で行う事業を模索していただき、**理学療法士の存在と活用に関して協議**していただければ幸いです。
- **研修や見学**を増やしていただきたいと思います。
- 現在、福岡の地区部長をしており、こういった「マイナー分野」とされる分野について、**各分野のエキスパートを何名か集めて研修会**をするのはアリかと思っています。
- **動物に対する理学療法の専門サイト**ができるといい
- **教育のシステムの構築と学会を発展**させるためにお力を貸していただきたいです。**実技を学べる場所や動物病院での実習の受け入れの拡大**も必要です。また、**行政への関わり**も少しずつ関係性を作っていく必要があります。

**法的、教育、資格制度の整理・整備**について意見が挙がった。

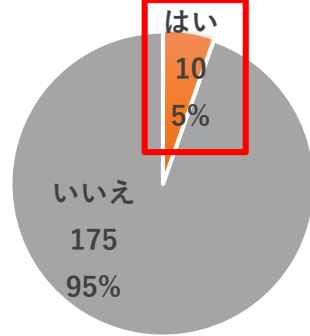
情報不足について、**情報発信や研修・見学機会の増加、専門サイトの設置**について希望が挙がった。

まとめ

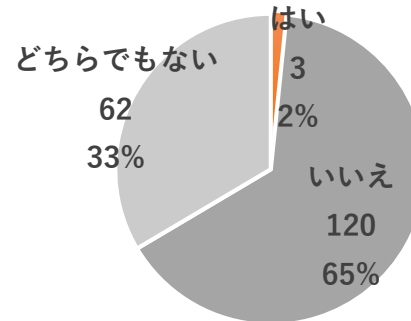
# 各設問領域の結果のまとめ

【結果】 回答数：185名（回収率4.9%）

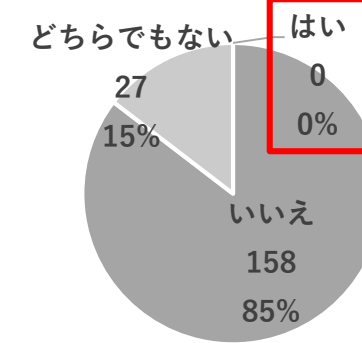
① 動物に対する臨床に関与しているか



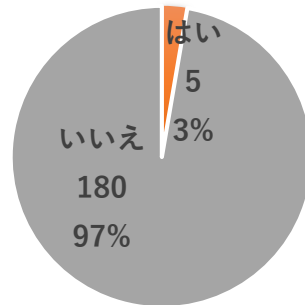
② 教育体制は十分に整っていると感じるか



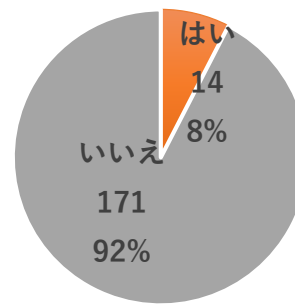
③ 情報は十分に得られていると感じるか



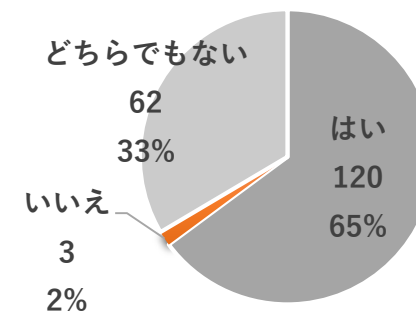
④ 動物に対する理学療法に関わる資格を持っているか



⑤ 動物に関連する学術活動を行ったことがあるか



⑥ 制度的な課題や不安を感じるか



- 動物に対する理学療法の臨床へ関与する者は少ない現状。
- 各領域に課題や不足の回答が占める中、特に「情報」の不足が明らかであった。
- 本会への要望に関する回答では法的、教育、資格制度の整理・整備を図ることや、情報発信（研修・見学機会の増加、専門サイトの設置等）の充実が挙がっており、要望を踏まえた今後の事業進行をすすめて参りたい。